

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

2021/7/16

りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 日銀は本日の決定会合で当面の金融政策を現状維持とした
- ◆ 気候変動対応投融資をバックファイナンスする資金供給の骨子素案を公表
- ◆ 展望レポートでは2021年度の成長率見通しを下方修正。
- ◆ 今後も当面の現行政策維持が見込まれる。気候変動対応の資金供給プログラムについて、今後の政策の効果が注目される。

- ✓ 日銀は7月15-16日の金融政策決定会合で、「長短金利操作付き量的・質的緩和」とフォワードガイダンスについて現状維持を決定した。
- ✓ 今会合での発表が予定されていた、気候変動対応を支援するための資金供給の骨子素案は以下の通り。

項目	内容
対象先	共通担保オペ（全店貸付）の対象先のうち、気候変動対応に資するための取り組みについて一定の開示を行っている先で、希望する先
バックファイナンスの対象となる投融資	・対象金融機関が上記取り組みの一環として実施するわが国の気候変動対応に資する投融資（①グリーンローン／ボンド、②サステナビリティ・リンク・ローン／ボンド③トランジション・ファイナンスにかかる投融資）
資金供給の方式	・共通担保を担保とする円貨の貸付とする。
貸付利率、貸出促進付利制度における取り扱い等	・貸付利率はゼロ%とする。 ・マクロ加算残高への「2倍加算」を適用する。 ・貸出促進付利制度においてはカテゴリーⅢ（付利金利ゼロ%）の対象とする。
貸付期間	・原則1年とする。 ・制度の実施期限までの間、対象投融資の残高の範囲内で、回数に制限を設けず、借り換えを可能とする。
開始時期	年内を目途に
実施期限	原則として（金融調節上の支障がない限り）2030年度まで

- ✓ 同時に発表された展望レポートでは成長率見通しについて、新型コロナウイルス感染症の再拡大より2021年度を下方修正した一方、2022年度を上方修正した。物価見通しについてエネルギー価格の上振れから全般的に上方修正した。

(対前年度比、%) < >内は中央値	実質GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2021年度	+3.5% ~ +4.0% < +3.8% >	+0.3% ~ +0.6% < +0.6% >
4月時点の見通し	+3.6% ~ +4.4% < +4.0% >	+0.0% ~ +0.2% < +0.1% >
2022年度	+2.6% ~ +2.9% < +2.7% >	+0.8% ~ +1.0% < +0.9% >
4月時点の見通し	+2.1% ~ +2.5% < +2.4% >	+0.5% ~ +0.9% < +0.8% >
2023年度	+1.2% ~ +1.4% < +1.3% >	+0.9% ~ +1.1% < +1.0% >
4月時点の見通し	+1.2% ~ +1.5% < +1.3% >	+0.7% ~ +1.0% < +1.0% >

- ✓ 景気認識については「内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している」と総論で変化なし。海外経済についても「国・地域でばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している」との評価を据え置いた。
- ✓ 今回の日銀政策決定会合はサプライズはなく、市場の反応は限定的だった。気候変動オペに関して、事前に付利が0.1%という予想もあったが、0%と発表され、その効果について一部懐疑的な声も上がった。今後金融機関における環境関連の投融資にどのような変化が生じるか注目される。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。